

平成19年度病虫害発生予報第5号

長崎県病虫害防除所長

向こう1か月間における主な病虫害の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稻	いもち病(穂いもち) 紋枯病 トビイロウンカ(注意報第3号) コブノメイガ(防除情報第9号) 穂吸汁性カメムシ類	一 やや少 やや多 多 やや少	やや少 並 多 多 並
大豆	ハスモンヨトウ	並	やや多
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病(<i>G. cingulata</i>) 輪斑病 ハダニ類	並 並 並	並 並 やや多 並
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	多 並 並 多	多 並 並 多
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシヒメシンクイ	やや少 並 並	やや少 並 並
果樹共通	カメムシ類	少	少
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	並 並 やや少 並 やや多 やや多 やや少	並 並 やや少 並 やや多 やや多 やや少

【発生予報】 本文の()内は平年値

普通期水稻

1. いもち病(穂いもち)

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(114筆)の結果、葉いもちの発病株率は0.3%(1.0%)、発生圃場率は2.6%(14.9%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発病株率2.3%)。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(114筆)の結果、発病株率は1.0%(2.7%)、発生圃場率13.2%(27.1%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率2.0%(4.3%)であった。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本病の発生に好適である。

3. トビイロウンカ

平成19年8月16日付病害虫発生予察注意報第3号による

4. コブノメイガ

平成19年8月16日付病害虫発生予察防除情報第9号による

5. 穂吸汁性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬のイネ科雑草における調査(31地点、捕虫網によるすくい取り調査)の結果、ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメの虫数は平年よりやや少なく、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシは平年並であった(表)。発生地点率はアカスジカスミカメがやや低い以外は平年並であった(表)。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア カメムシ類の飛来・増殖源であるイネ科雑草除去等の圃場環境整備に努めるが、水稻の出穂10日前以降の除草はカメムシ類の圃場内への侵入を助長するので避ける。

イ 水田への飛来が多くなる夕方に薬剤散布をおこなうと効果が高い。

ウ 薬剤散布にあたっては圃場周辺への薬剤の飛散に十分注意する。

表 イネ科雑草でのすくい取り調査における虫数の推移(8月上旬)

種類名	10回すくい取りあたり虫数						発生地点率	
	H15	H16	H17	H18	平年値	H19	平年値	H19
ホソハリカメムシ	0.7	1.3	1.8	1.9	2.0	1.2	77.8	80.6
クモヘリカメムシ	0.4	0.7	0.4	1.3	1.4	1.0	46.7	45.2
シラホシカメムシ	0.7	0.9	0.4	0.7	1.1	0.9	54.1	61.3
アカスジカスミカメ	6.6	5.5	7.0	16.6	11.3	6.5	66.8	51.6
計	8.4	8.4	9.6	20.6	15.8	9.6	87.5	93.6

注) 虫数の平年値はH9~18年の最大・小値を除いた平均値

発生地点率の平年値はH13~18の平均値

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(15筆)の結果、幼虫の寄生株率は2.6%(3.4%)、株当たり虫数は0.8頭(0.5頭)、白変葉発生圃場率は60.0%(35.4%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、8月以降平年よりやや少~並で推移している(図)。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は少ない見込みであり本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。

イ 老齢幼虫になると薬剤の効果低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

ウ 薬剤散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守し、圃場周辺への薬剤の飛散がない

よう十分注意する。

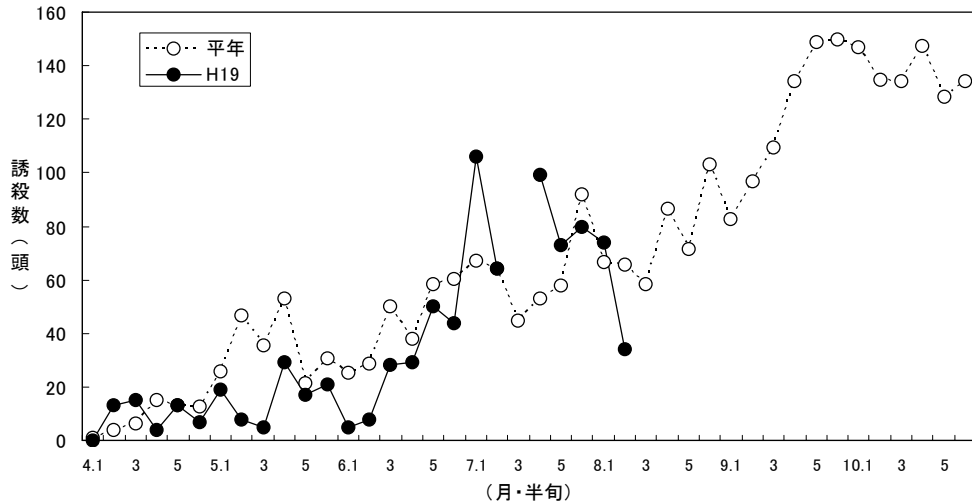


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市)
 ※7月3半旬は台風により欠測
 平年:H9~H18の平均値(最大・小値除く)

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率0.2%(0.2%)、発生圃場率3.0%(3.6%)であった。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率0.2%(0.4%)、発生圃場率9.1%(12.4%)であった(図)。

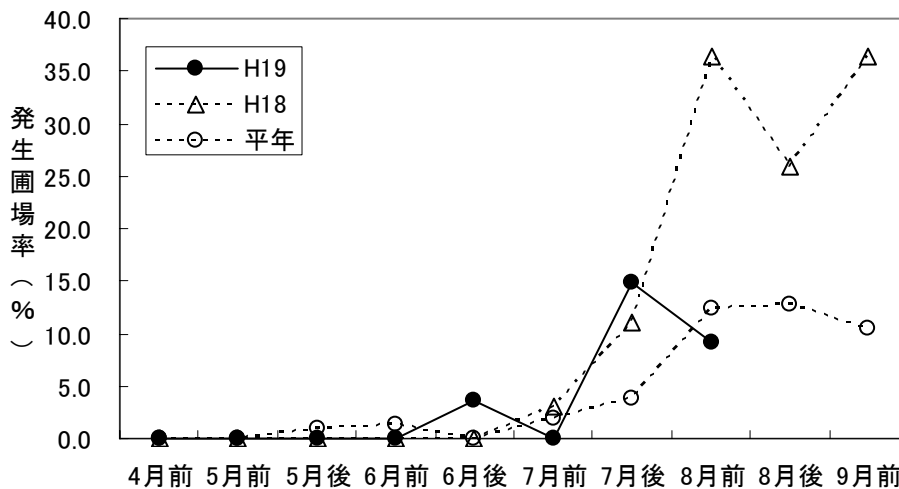


図 いちご 炭疽病(*G.cingulata*) 発生圃場率の推移

3. 輪斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生株率4.5%(3.4%)、発生圃場率27.3%(18.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 被害葉は伝染源となるため栽培上支障のない範囲で除去する。また、除去した被害葉は圃場周辺に放置しない。

イ 肥料不足は発病を助長するので留意する。

ウ 過湿条件は発病を助長するので、密植を避け、通風を良くする。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率1.8%(3.3%)、発生圃場率21.2%(16.0%)であった。

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は1.3%(0.7%)、発生圃場率は48.7%(18.6%)、発病果率は1.2%(0.5%)、発生圃場率は15.4%(8.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

今後、台風の襲来時に急速に被害が拡大する可能性があるため、薬剤を散布する場合は、必ず台風接近前に薬剤を散布する。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病果率は6.7%(9.1%)、発生圃場率は43.6%(44.0%)であった。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は10.4%(15.7%)、発生圃場率は61.5%(61.2%)であった。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、果頂部の被害果率は2.1%(0.7%)、発生圃場率は35.9%(10.0%)であった。

イ 県予察圃場(諫早市)での黄色粘着トラップの誘殺量は平年よりやや多く推移している(図)。

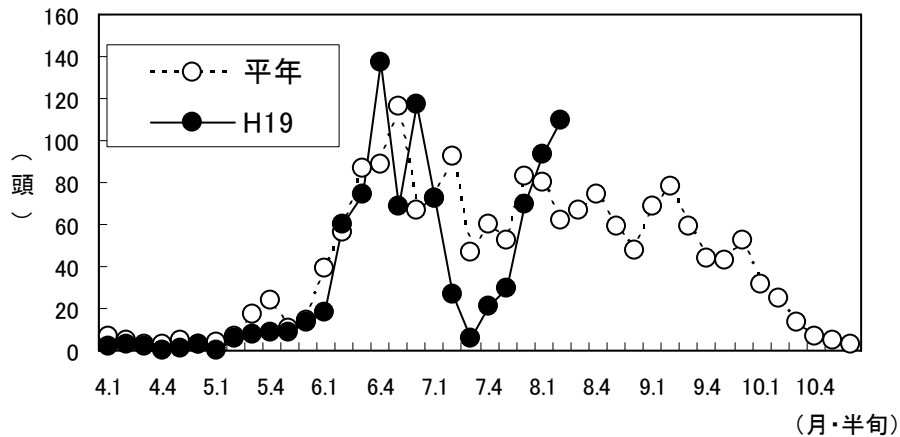


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況(諫早:黄色粘着トラップ)
※平年は平成9～18年の平均

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 下表の予測発生ピーク日からその5日程度前までに薬剤散布をすると防除効果が高い。
- イ 発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が、0.3～0.5頭に達する前に防除を行う。
- ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる発生ピーク

地区名	多良見 船津	長与 吉無田	西彼 大串	諫早 川内	大村 小路口	佐世保 早岐	国見 神代	北有馬 谷川
第6世代(本年)	8/24	8/23	8/29	8/22	8/23	8/26	8/23	8/20
〃(平年)	8/24	8/22	8/30	8/20	8/24	8/26	8/20	8/19
第7世代(本年)	9/11	9/10	9/18	9/8	9/11	9/13	9/10	9/7
〃(平年)	9/11	9/10	9/19	9/6	9/11	9/14	9/7	9/6

注1：発生ピーク日は各地区の選果場がある地点で算出している。

注2：プログラムに使用する気温データには、ながさき農林業情報システム500mメッシュを利用。

注3：発生ピーク日は各地区の選果場(佐世保は旧選果場)がある地点で算出している。同一地区内の山間部では、表より2～3週間程度遅れる。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は1.0%(6.2%)、発生圃場率は40%(68.3%)であった。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は41.0%(35.5%)であった。

3. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.1%、発生圃場率6.7%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)での誘殺量は平年よりやや多く推移している(図)。

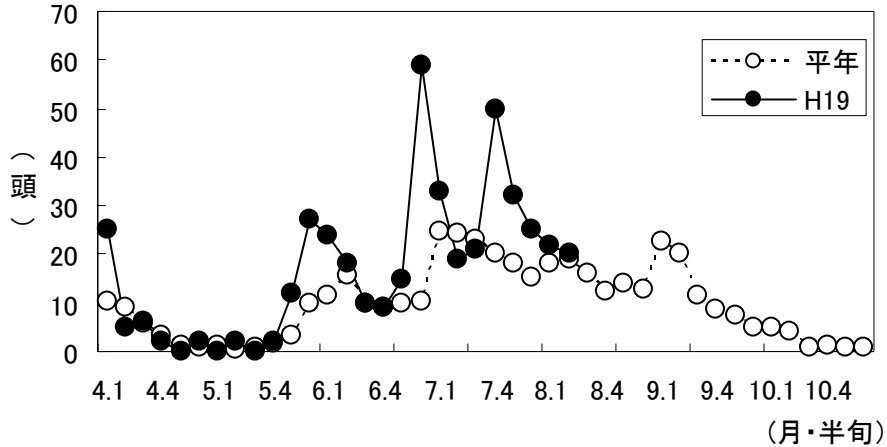


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況(諫早:フェロモントラップ)
※平年値は平成9～18年の平均

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 各地区のフェロモントラップによる誘殺量は平年より少なく推移している(図)。

イ 本年のヒノキきゅう果着生量は、平年より少ない～やや少ない。

ウ 7月下旬に実施したヒノキきゅう果口針鞘数調査の結果から、果樹園への飛来時期は9月上・中旬以降と予測される(平成19年8月16日付技術情報第1号を参照)。

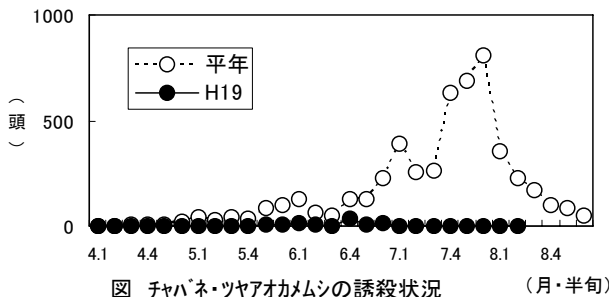


図 チャバネ・ツヤアオカメシの誘殺状況
(諫早:黄色コガネロール)※平年は平成11～18年の平均

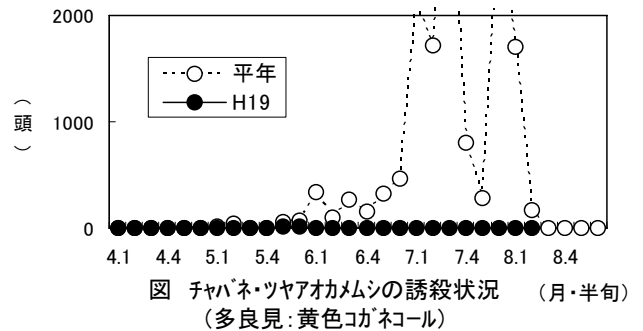


図 チャバネ・ツヤアオカメシの誘殺状況
(多良見:黄色コガネロール)

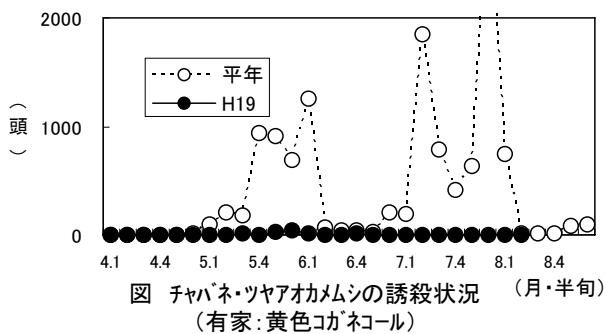


図 チャバネ・ツヤアオカメシの誘殺状況
(有家:黄色コガネロール)

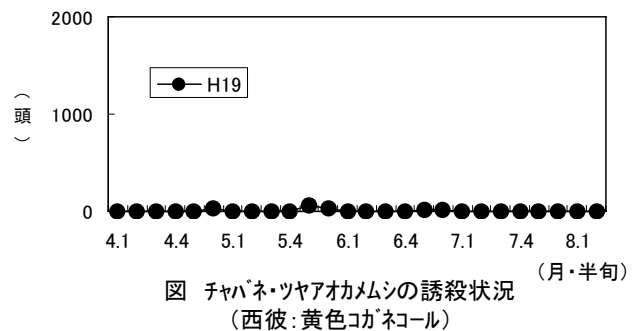


図 チャバネ・ツヤアオカメシの誘殺状況
(西彼:黄色コガネロール)

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は4.2枚(5.3枚)、発生圃場率は55.0%(70.5%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は8.0頭(15.6頭)、発生圃場率は70.0%(65.9%)であった。

3. チャノココクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡当たりの巻葉数は0.3枚、発生圃場率は17.1%)。

イ フェロモントラップでの誘殺量(東彼杵茶業支場調査)は平年よりやや少なく推移している(図)。

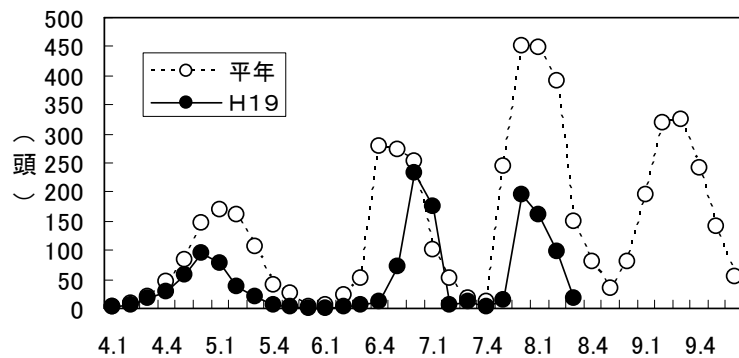


図 チャノココクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)(月・半月)
※平年は平成9年~18年の平均値

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡当たりの巻葉数は0.8枚、発生圃場率は16.6%)。

イ フェロモントラップでの誘殺量(東彼杵茶業支場調査)は平年並に推移している(図)。

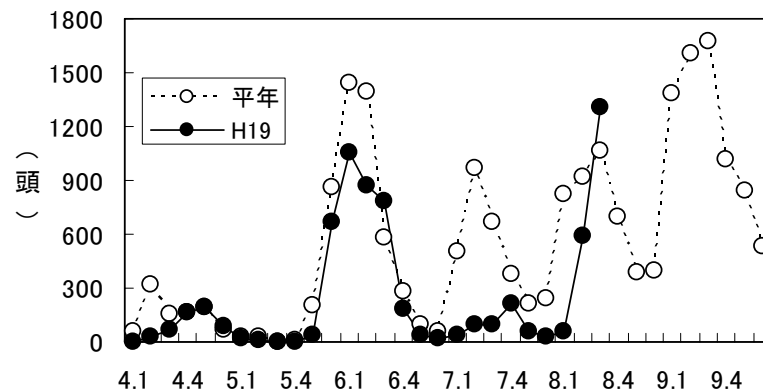


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)(月・半月)
※平年値は平成9年~18年の平均値

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.2%(0.1%)、発生圃場率は15.0%(5.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達の恐れがあるので、各薬剤の使用は年1回とする。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は3.1頭(1.0頭)、発生圃場率は60.0%(37.7%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

チャノミドリヒメヨコバイの幼虫は葉裏に生息するので、薬液が葉裏までかかるよう十分量を散布する。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は1.4%(6.5%)、発生圃場率は20.0%(30.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は年3回発生するが、それぞれの世代のふ化盛期が防除適期である。

イ 1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると薬剤の効果が低下するので、下表の第3世代予測ふ化盛期当日～5日後に散布する。なお、独自にピーク日を現地調査し防除適期を判断している地域ではその判断を優先する。

ウ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

表 「有効積算温度則による防除適期予測法」によるクワシロカイガラムシのふ化最盛期予測日(第3世代)

地区名	東彼杵 赤木	東彼杵 太の原	世知原 板山	世知原 木浦原	五島 大津
平成19年	9/11	9/18	9/26	9/12	9/1

注1：ふ化最盛期予測日は「有効積算温度則による防除適期予測法(東彼杵茶業支場)」により算出した。

注2：使用する気温データには、ながさき農林業情報システム500mメッシュ気象データを利用した。

注3：平成19年8月15日現在で予測(1月1日～8月14日まで実測値、8月15日以降のデータは過去10年間の平均値を利用)した。

注4：第3世代の予測値は、現地調査による第2世代のふ化最盛期日以降の有効積算温度による(世知原 板山のみ第1世代のふ化最盛期日以降の有効積算温度による)。

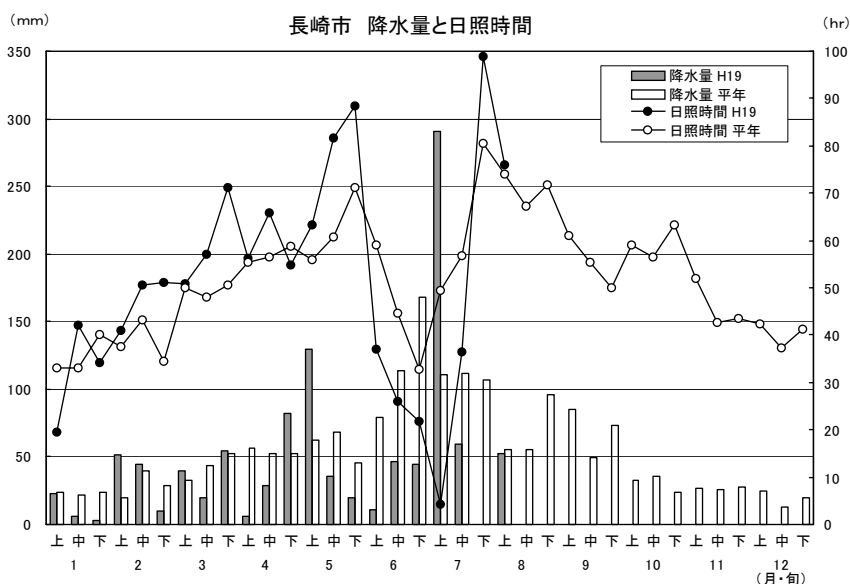
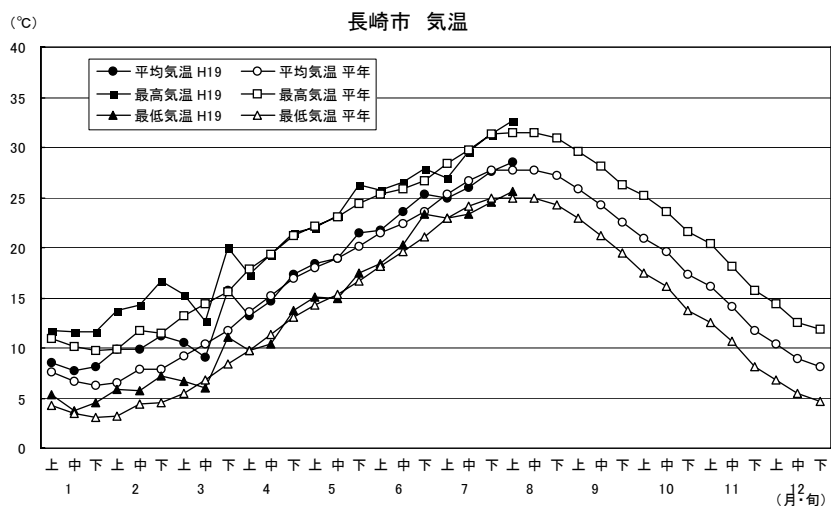
【参考】

気象 (平成19年8月10日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

※予報対象地域：九州北部地域



「農薬使用基準の遵守について」

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、使用基準（適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数）及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。

○文中の市町村名は合併前で表記しています。

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○「防除所ホームページ」を利用して、ながさき農林業総合情報システム（一部会員制）
アドレス：<http://www.n-nourin.jp/>やその他の情報を閲覧することができます。

○この情報に関するお問い合わせは、電話またはEメールでお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027, Eメール：kngs0301@sp.jppn.ne.jp